



御成門だより

教育目標

「豊かな心とたくましい体をもつ生徒」「自ら計画し進んで学習する生徒」「他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒」

〒105-0003 港区西新橋3-25-30 電話 03-3436-3553 FAX03-3436-3552 E-Mail onarimon-js@minato-kyo.ed.jp

「奏功（そうこう）」

校長 佐藤 太



10月。“見上げれば ひつじ雲が 奏でる秋の空”

先週で中間考査が終わりました。今日からテスト返却ですが、振り返りをしっかりとすることが大切です。

さて、今週から後期の学校生活に入ります。後期の専門委員やクラスの係の皆さん、よろしくお願ひします。また10月は、5日の2年生連合体育大会、6日の3年生進路説明会、21日の学習発表会、29日の合唱コンクールと、多く学校行事や様々な会がある月です。それだけに、この季節は何か打ち込んだり、感性を働かせて活動する良い季節です。勿論、勉強にもです。スポーツに芸術に、「〇〇の秋」と言われる由縁です。

今月の着目した字は「奏」。「奏でる」や「演奏する」の意味でよく使われますが、10月末に御成門中三大行事の合唱コンクールが3年ぶりに体育館に戻ってくるからなのか、私は奏の字が頭に浮かんできました。

「奏でる」は、楽器の音を響かせるイメージですが、「歌声」は自分の体を楽器のように使ってお腹から吐く息で声帯を震わせ、声が音や歌声として響いていくのです。ですからリコーダーでもフルートでも同じ形の楽器から出る音は同じ音に聴こえますが、人間は、一人一人お腹の中や喉の声帯の状況、口の形が違うので、そこから出る音声が一人一人違うのは、なるほど当然です。一人一人の声が違うことこそが、その人らしさ、個性であり、他には変え難い存在そのものです。

しかし、だからこそ異なる楽器の音が合わさると素敵な演奏になるように、一人一人違った歌声を心を合わせて響きあうハーモニーを創ることができる合唱は、観衆を釘付けにする魅力を持つのではないのでしょうか。是非、一人一人の持ち味や個性を生かして、素晴らしい歌声を観衆に届けてほしいと思います。

奏は、「奏上する」などの言い方をするように、差し上げるという意味もあります。「奏」の漢字の成り立ちは、漢字上部の「丰」は神様を呼ぶ木の枝を表し、漢字下部の「夭」は末広がりの方の字と同じで、天に物を差し出す様子を表すのだそうです。この上下を合わせて「神様が降りてくるように物を差し出す」を表し、差し上げるという意味になるのですが、そう考えると歌声を、天まで届けるという意味もあるのでしょうか。

「奏」の字で使われる言葉に、「奏功（そうこう）」があります。最年少記録を塗り変えてきた若手将棋士の藤井聡太棋士が、この「奏功」という言葉を試合後のインタビューで、よく使っています。例えば、「苦しくて負けに近づいていた時もあつたけれど、粘りが奏功した」とか「積極的にさす方針が奏功した」などのように、対策を立てたからうまくいったという意味で、試合を振り返って感想を述べたときに使っているのです。「奏功」は皆さん余り使わなくても、「功（こう）を奏（そう）した」と言う人は結構いると思います。「奏功」に似ている言葉で、「成功」という言葉があり、こちらはよく使いますが、「成功」と「奏功」との言葉の意味を、今回改めて、調べてみますと、

●「成功」は、「物事がうまくいくこと全体を表す」とあり、



●「奏功」は、「手段や作戦をうまく働かせて物事をうまく成功させる」とあります。「成功」はやってみたらうまくいった時も含めて一般的に首尾よく運ぶ感じですが。「奏功」は、目標を達成したり、チャレンジしたりする時に、計画や工夫、作戦や方法を考えて実践して成功を手にするのだと感じました。皆さんも漠然と物事に取り組むのではなく、しっかり構想準備をし、方針を立てて取り組む習慣をつけてください。

保護者・地域の皆様、気持ちの良い秋空が広がる10月に入りましたが、今月もよろしくお願ひいたします。